



齋藤 保育園にいるときと同じく、自分は少し口やかましいぐらいの父親です。他との比較はできませんが、2歳の娘の世話には妻に任せることが多いかもしれません。吉川 小学1年の娘がいます。家と保育園では変わりがなく、ほ

6月23日～29日は国の「男女共同参画週間」です。



オトコの育児 ~男女共同参画特集~

2人以上の子どもがいる夫婦は、夫が育児・家事に積極的な傾向にあるとされ、男性の育児参加は、少子化対策にも有効なものとして注目されています。育児に積極的に関わり、責任を担う父親を「イクメン」育児をする男たち（メンズ）」と呼ぶなど社会的にも認知されています。



今回、男性目線からの保育事情を知り、男女が共に関わる子育てのあり方についてのヒントを求め、市内に勤務する男性保育士の方々に話を伺っています。女性の仕事というイメージがありますが、にかほ市内には、4名の男性保育士が勤務しています。（討論形式でコーディネーター役を、にかほ市男女共同参画懇話会会長の柴田禮子さんをお願いしています）

保育士
以前は「保母」と呼ばれていましたが、平成11年の児童福祉法改正により国家資格となり、男女関係なく「保育士」という名称に統一されました。

◎保育士として男性であることの長所を評価されることはありますか？

柴田禮子さん（以下、柴田） 保護者や周りから、男性保育士としての長所を評価されたことはありますか？
吉川誠治さん（以下、吉川） 「男性でよかった」と言われた経験はありませんが、育児に関心の高い父親も増えていて、同性に相談しやすい面があると思います。少しずつアドバイザーできるようになってきています。
阿部陽介さん（以下、阿部） 女性が多い職場なので、目立つというか、子どもからすぐに覚えてもらえるようです。家に帰って「陽介先生がくれた」などと、保育園での出来事を話しているらしく、そういったことを聞くとうれしく思います。
齋藤右文さん（以下、齋藤） 当然のことですが、園児それぞれ、育っている環境が違うので、保育士に求められることもそれぞれ違うかもしれません。これは評価ではありませんが、自分は男なので父親としての役割を園児に求められていると感じることがあります。



阿部陽介さん（にかほ保育園）



吉川誠治さん（ひまわり保育園）

吉川 保育園に預ける両親は、共働きがほとんどなので、女性保育士が母親、男性保育士が父親とすると、家庭と同じではないかと思えます。自分も一児の父として自分の子育てに照らしたり、今まで学んできたことを含めて、接しています。また、子どもと同じ目線であることも大切にしています。家ではどうしても上からの、しつけようとする目線になるのではないのでしょうか。
柴田 子どもたちの体調の変化などはすぐに気付かれますか？
吉川 さまざまなパターンがありますが、普段できることができなかったり、機嫌が悪かったり、毎日一緒にいるからこそ、気付けることが多いですね。（皆うなずく）
柴田 とても安心します。特に、朝の忙しい時間帯に、子供を保育園に預けて仕事に出かける、親の立場になると大変心強いです。さまざま環境で育つ子供たちの憩いの場が保育園なのかもしれませんね。

◎自分の家庭では父親としてどのように育児に関わっていますか？

将来、どう関わろうと思いますか？
（吉川さん、齋藤さんは子育ての経験から阿部さん、佐藤さんは将来の希望を）

齋藤 保育園にいるときと同じく、自分は少し口やかましいぐらいの父親です。他との比較はできませんが、2歳の娘の世話には妻に任せることが多いかもしれません。

めて伸ばす方針です。また、母親が叱ったら、父親がフォローするなど夫婦でバランスをとっています。育児、世話は全般的にやってきました。佐藤 保育園で子どもたちを見てみると、小さいうちはどうしてもお母さんべつたりの子が多いようです。自分は子どもとはじっくり触れ合いたいです。当然、育児に参加したいです。
阿部 子育ての大変さは職業上、実感しています。おじいさん、おばあさんの存在が助けになると思います。自分も子どもの育児には、積極的に関わりたいと思います。
柴田 私が子育てしていたころとは、男性の意識にかなりの違いがありますね。社会の変化を感じます。男性保育士も今後、さらに増えていくでしょう。心強いことだと思います。今日は保育園からの貴重な声、ありがとうございました。

保育士の道へ進む男女比率

4人は県外の保育士の学校を卒業しています。概ね5%前後男子学生がいて、少しずつ増加傾向にあるそうです。



柴田 男性の保育士には、保護者の父親も相談しやすいでしょうね。育児に向かう心構えがあれば「育児は女性ができるもの」ではなくなると思います。



佐藤 公さん（小砂川保育園）

また、さまざまな家族構成、家庭の状況があると思います。心のケアが必要な子どももいるかもしれません。男と女では子どもの抱き方、接し方も違う。男性と女性の保育士、両方いることが大切なことですね。

◎子どもとの接し方で注意している点は？

佐藤公さん（以下、佐藤） 運動が好きなので、まず体を動かして触れ合いたい。年長か年少かで関わり方も変わってはいますが、信頼関係もできて、お兄さん気分です。女性保育士の良いところ、気遣いや言葉使いの優しさなどは見習うようになっています。
阿部 自分も運動が大好きなので、一緒になって遊んであげようとしています。体を動かして一緒に楽しみたいと思っています。
齋藤 若いころは対等に、友だちのように接しようと思っていました。今は厳しいときには厳しく、もちろん子どもの様子を見ながらですが、父親のつもりで接するようにしています。自分に子供ができてからは、それが強くなったと思います。

〓懇談を終えて〓

忙しい毎日をごす保育士の先生たちですが、園児たちのお昼寝の時間を利用して、集まっていたいただきました。穏やかに、時に熱く自らの職業である保育について、語る場面もありました。園児に家族として接している様子が見えるようでした。それぞれ、厳しいお父さん、優しいお兄さんとして。女性が多くの職場では、力仕事や安全対策など、男性的な部分も当然、期待されているようですが、男女の違いにこだわることなく、役割を果たし、補い合い、バランスを保つことを大切にしているようでした。男女が共に関わる子育てのあり方について、貴重なヒントをいただきました。

平成22年度にかほ市の男女共同参画事業

●男女共同参画・押し掛け対話劇
キャラバン隊を派遣
男女共同参画について考える「きつかけづくり」のため、各団体の行事等にお邪魔（押し掛け）して、対話劇を上演しています。20分程度の内容で料金は無料です。お気軽に問い合わせください。

●男女共同参画講演会

昨年、夫婦で活動する音楽ユニット「ESPERANZA（エスペランサ）」を講師に迎えました。ことしも10月に開催する予定です。詳細等については後日、広報等によりお知らせします。

男女共同参画社会に関する問い合わせは：企画情報課 交流推進班 ☎43・7510